

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成25年度第3回大学職員情報化研究講習会運営委員会 議事内容

- I. 日 時：平成26年1月30日(木) 午後2時から午後4時まで  
II. 場 所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
III. 参加者：木村委員長、廣野副委員長、久保田副委員長、志田委員、深谷委員、青山委員、  
吉田清委員、大竹委員、毛利委員、齋藤委員、吉田浩委員、柿本委員、川崎委員、  
齋藤アドバイザー  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本(記)

#### IV. 検討事項

##### 1. 応用コースの結果報告について

他団体と私情協のすみ分けできること。ICTの活用をどのように関連付けて設計するか。大学に求められている能動的な学修環境、事前事後学修の普及をICT活用で促進させたいこと。応用コースは11月15日に開催され、以下のように結果報告がされた。次年度の内容については今後の委員会で継続検討することにした。

- ・ 第1分科会では、2件の情報提供からグループ討議を行った。討議は時間が短かった意見があった。LMS・ポートフォリオへの理解は深まった。事前研修の期間が少なかったとの意見もあった。
- ・ 第2分科会では、2件の情報提供を行った。事前レポートの説明から短時間の討議を行った。事例は参考になったとの意見であった。
- ・ 第3分科会では、事前レポートとオリエンテーションで目標のガイダンスを設定し、2件の紹介から討議に進んだ。評価ではまあまあ達成できたが9割であり、時間が短い、目標が絞れていないの意見があったが、自大学と他大学について検討が進んだと考える。
- ・ 全体の成果として、参加者アンケートから、改革行動の認識は9割が好評価、トレンド・人的・組織的課題の認識は7割が好評価であった。情報提供としては満足な意見・評価であったが、討議については時間的に不足の意見が多かった。イメージとして2泊3日の想定と同様のレベルを求めるのは困難と考える。
- ・ 講師の説明で理解が深まったことは良かった。
- ・ 事例が難しく意見交換での話題として困難との意見があった。
- ・ 盛りだくさんの内容だったか、知識レベルがまちまちで事前・事後学修で予備知識が必要。
- ・ 実際にICTを具体的にどのように活用するかまではいたらない意見があった。
- ・ 情報提供の場として設定をしたが、応用としては1日の制約で厳しいか。応用としての深堀することは困難だったか。
- ・ 次年度は関西地区として、武庫川で12月5日の開催を検討することにした。大学の費用の関係もあり、日帰りでの対応を考慮して開始時間を11時にすることも検討したい。
- ・ 獲得目標は、背景の理解と情報の獲得になるので、応用コースの名称もどうかとの意見があった。その先の検討として2日開催にした場合、以前の目標で実施される。参加者へ応用の内容の見える化を進める必要があるのではないか。
- ・ テーマ設定の要因が大きいのではないか。例えば、教学マネジメントを活性化するICTとすると難しい。私情協としてICTを活用した到達のイメージを見せる、理解できるようにする必要があるのでないか。日帰りの場合、なおさら、なるほどと思う事例が必要と考える。
- ・ 補助金をイメージした競争型、学生成果・指標モデル、アクティブラーニング、大学教育改革プログラムが行えるような事例が求められるのではないか。

##### 2. 基礎講習コースの報告について

次年度の開催に向けて委員から開催要項の骨子が提示され、今年度の結果も踏まえて以下のような検討がされた。

- ・ 過去に工夫を重ねてきたが、グループ討議が確信にせまったところできたか、討議をサ

ポートする委員の力量が求められる。

- ・ 過去のコンテンツ（映像や資料）を利用して、感想や設問を設ける形で事前研修を実施してはどうか。
- ・ イントロダクションで重点を取り上げて、全体討議で理解を確認すること。
- ・ 情報提供として、①アクティブラーニングについて、②学修時間として事前事後学修の LMS 紹介で京都産業大学、③地域連携として地域に密着した教育や連携活動などはどうか。
- ・ 1 日目が気づきで、2 日目にテーマ決定から討議、3 日目に発表のスケジュール案。
- ・ 進め方の意見として、反転研修という提案があったが、出発点としてレベルをそろえるために、オンデマンドコンテンツを利用するなど組み上げるための検討が必要。
- ・ 参加者の年齢から運用が難しい場合があり、グループ割は検討が必要。
- ・ SNS などは討議のキーワードにもなっていた。LINE やフェースブックを利用している大学もあり討議に含められないか。
- ・ 討議では先輩（5, 6 年）に引っぱられることもあり、レベルの違いを感じた意見があったが、レベルをそろえれば良いのか？
- ・ 情報提供では会場の理解度として、純粋な質問があったりして、双方向的な場が形成できたのではないか。
- ・ 討議では、参加者がシステムのことでスタートする場面があり、課題検討部分や結論の部分で ICT を活用するところの説明が十分理解されていない。
- ・ 例えば補助金に対応した考えは良いと考えるが、そこからのグループ討議で活かすのは参加者の力量になるのか。日常で抱えている問題もとりあげてはどうか。
- ・ 学生時代に LMS を利用していたり、LINE を使っていたりする場合、その経験から、上手く誘導したら良い発想が出てくるのではないか。
- ・ テーマを決めるのが難しいのではないか、委員としては話題の提供が必要ではないか、文科省や大学の動きなど新しい視点も委員の研修に必要ではないか。
- ・ 大学でのベーシックなシステムの紹介があっても良いのではないか。
- ・ 業務改善に ICT を活用するとあるので、その視点の獲得が必要で、今回の事例は教学よりのため、仕事を ICT を使って改善すること。例えば iPad 利用で会議の電子化（利点として事前資料準備が促進される）など考えられる。
- ・ それぞれの大学に入った時に建学の精神を学ぶが、相互に確認をしてはどうか。
- ・ IR についても情報提供にいらしてはどうか。
- ・ 基礎講習コースであるが、グループ討議は応用になっていないか。基礎として何を身につけてもらうのか、洗い出しが必要ではないか。ICT でどんな可能性があるのか調べられるまでの提供で良いのではないか、学務改善と大学改革の 2 面性があるのではないか、意識付けができれば、技能は付けられないので気づきを持たせることが必要。
- ・ 情報提供が応用になっていないか、何を身につけてもらいか振り返りが必要ではないか。

## V. 今後の対応

- ・ 来年度は基礎、応用でそれぞれ 2 名のリーダ体制で進めることにし、次回委員会はメールで調整を行うことにした。